

# 日本海地震・津波プロジェクト

## 沖合構造調査

独立行政法人 海洋研究開発機構



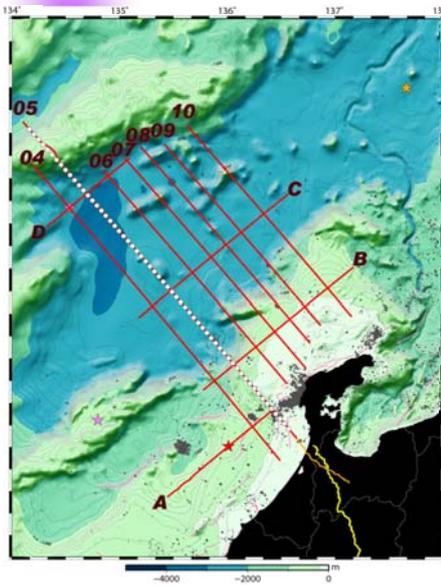
### 沖合構造調査(線表)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
① 歴史地震・古津波調査		新潟 北陸地域	山陰/九州		東北/北海道			総合解析
② 海域構造調査								
(1) 沖合反射法地震探査	北陸沖縦断 データの補完	北陸沖海壇			北海道沖海壇		東北沖	総合解析
(2) 海域プレート構造調査		大和洋盆の構造調査(広帯域OBS)			日本海盆の構造調査(広帯域OBS)			総合解析
③ 沿岸海域および海陸 統合構造調査	北陸沖沿岸調査 高山トラフ横断 飛騨-能登 半島沖	山陰-九州沖沿岸調査 若狭沖	島根沖		北海道沖・北東北沿岸調査 札幌沖	下北沖	酒田沖	総合解析

**目的:** 北海道北西沖～鳥取沖にかけての日本海の沿岸部から大和海盆・日本海盆に至る海域において、長大ストリーマケーブルを用いたマルチチャンネル反射法地震探査と海底地震計を用いた地震探査を実施し、日本海の地殻構造・断層の位置と形状を明らかにする。

## 平成26年度の調査【石川沖～福井沖】

日26-2-2-1



● 調査期間:

2014年7月22日[舞鶴]  
～8月30日[横須賀]

● 調査内容

✓ MCS探査(赤線)

11測線, 総測線長2278 km

✓ OBS探査(O印)

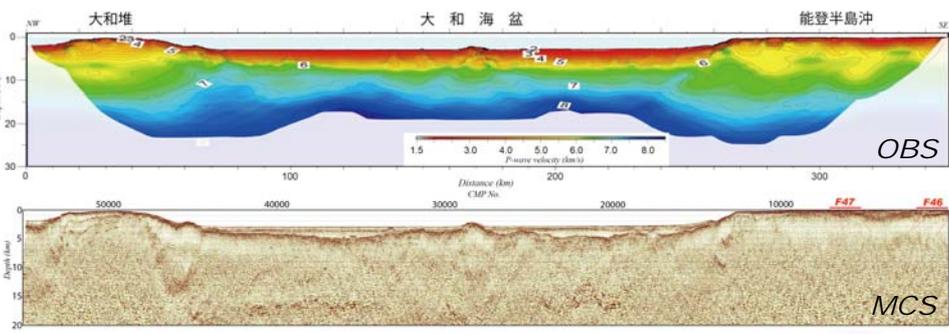
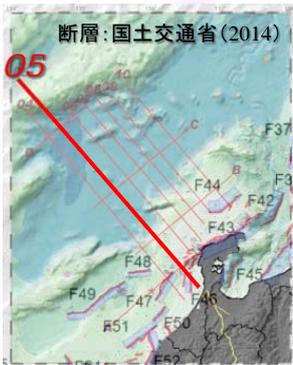
60台, 測線長346 km

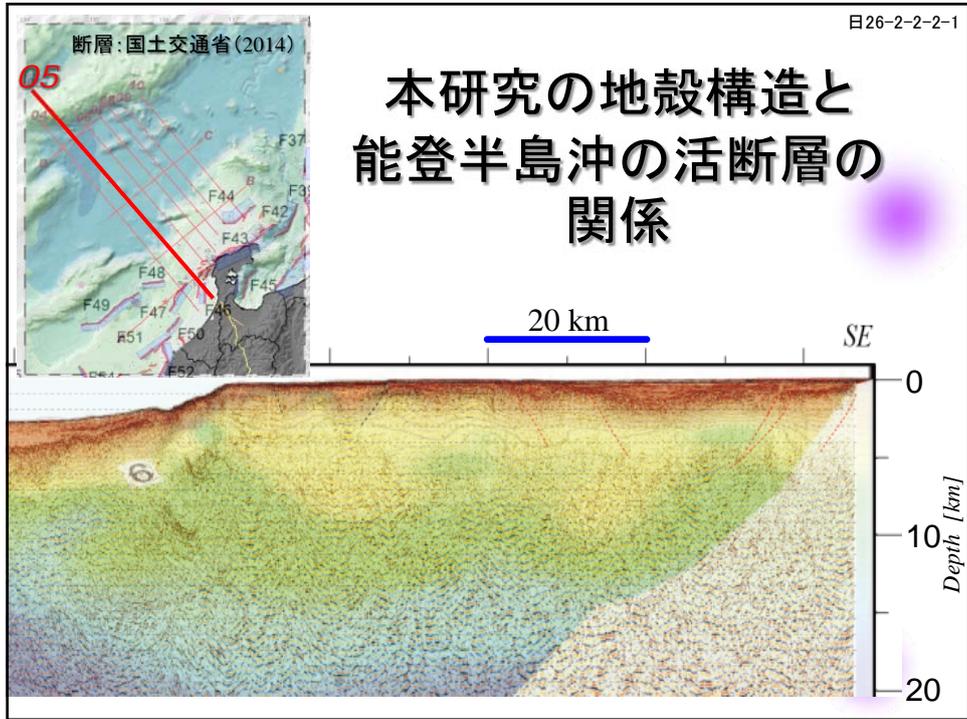
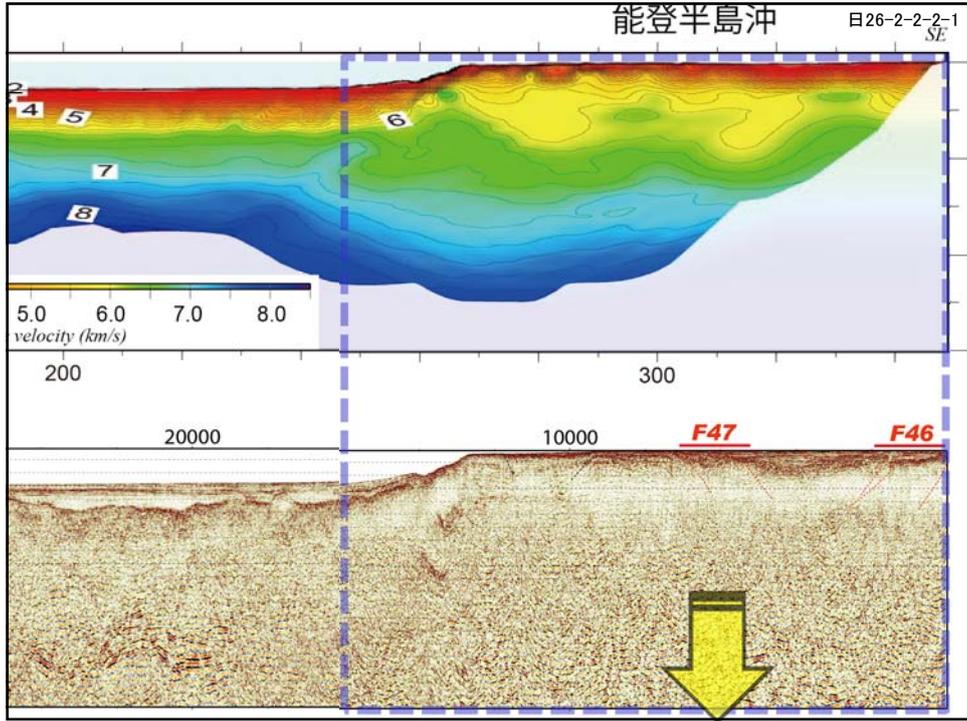
✓ OBS探査測線は地震研の海陸統合探査(橙線)と接続。

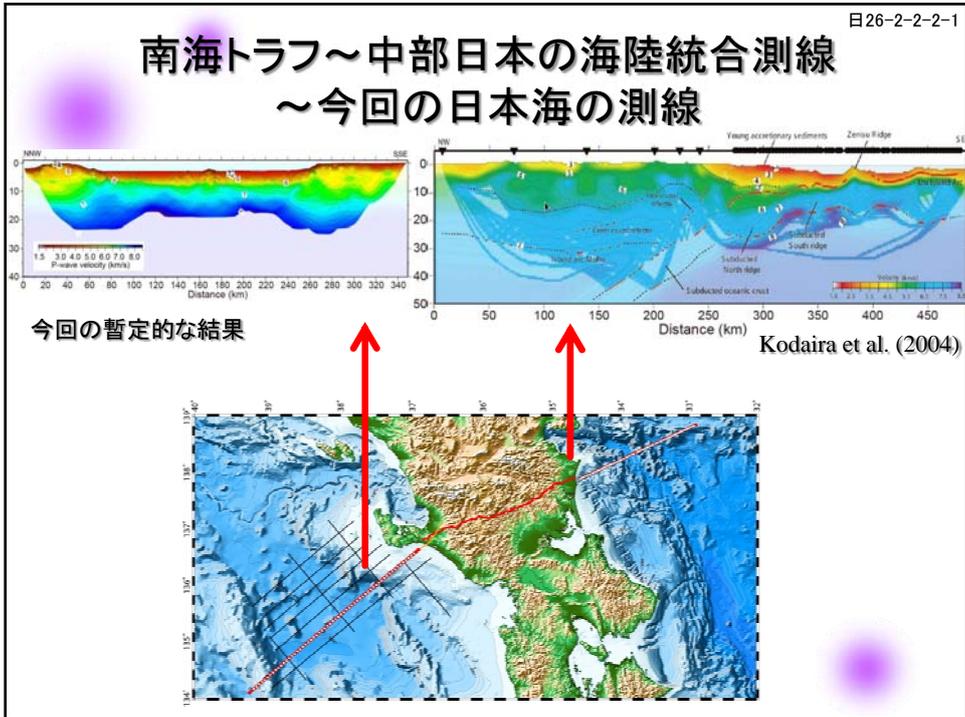
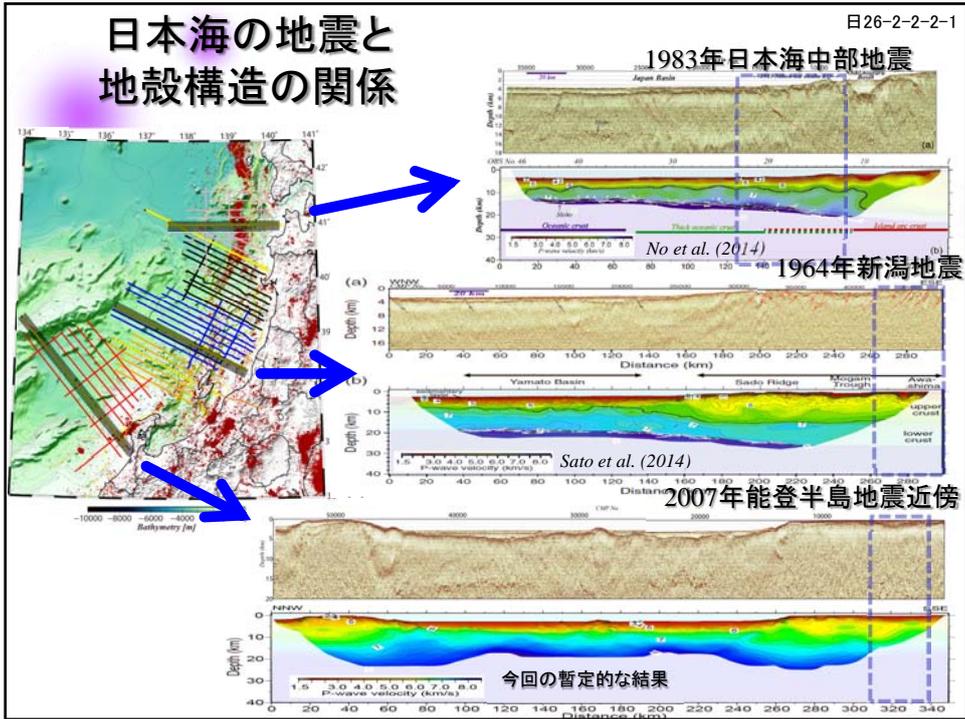
灰色点: 気象庁一元化震源(2000～2013),  
 橙色線: 東大地震研の測線,  
 黄色線: Kodaira et al. (2004)・Iidaka et al. (2003)の  
 海陸統合測線,  
 桃色線: 活断層(岡村, 2013), 星印: 既存掘削点

## 大和堆～大和海盆～ 能登半島沖大陸棚 の暫定的な結果【SJ1405】

日26-2-2-1







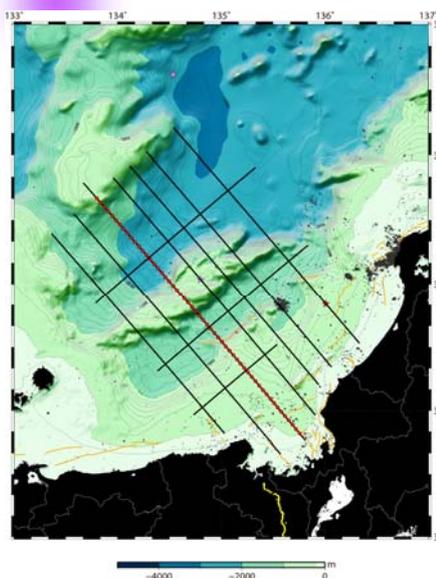
日26-2-2-2-1

## まとめ

- 暫定的な結果ではあるが、能登半島沖大陸棚と大和堆の領域は島弧地殻的な構造となっており、大和海盆は厚い海洋地殻的な構造となっている。
- 調査海域で活断層が発達している領域は、島弧地殻的な地殻構造(能登半島沖大陸棚)で構成されている部分に対応している。
- 今回取得されたデータにより、銭州海嶺から中部日本を縦断し、日本海に至るイメージが得られた。
- 得られた結果は、日本海の地殻の形成や日本海の活構造や浅発地震との関係を検討する上で重要な情報であり、今後さらに解析を進める。

日26-2-2-2-1

## 平成27年度の調査計画案(福井沖～丹後半島沖)



- 調査予定海域:  
福井沖～丹後半島沖
- 調査予定時期(調整中):  
2015年夏
- 調査内容  
(測線の詳細は現在調整中):
- ✓ MCS探査(黒線)
- ✓ OBS探査(赤丸印)

灰色点: 気象庁一元化震源(2000～2013)  
 橙色線: 活断層(岡村, 2013)  
 茶色線: 大大特測線(廣瀬・伊藤, 2006)  
 星印: ODP・基礎試錐